総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成28年度)

2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ④観光分野(3/6)

	評価 区分 (※)	総合 評価 (IとIIとII を1:1:2の 割合で計 算)	I 目標に向けた取組 の進捗	Ⅱ 支援措置の活用と 地域独自の取組の 状況	田 取組全体に わたる事業 の進捗と政 策課題の解 決	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
和歌山県「高野・熊野」文化・地域振興総合特区(和歌山県)	正	4.1	4.7 進界域光(4.9% 生地地観べ 149% と 149% を 105% と 152% と 15	3.8 規・総通成・業業的 りょく 事 地 ・ 界全助 別域特案事 切お域用 政要造業 域 取強産策 がけの 接化区士 よる弾 援化修 自組県急業 実対・ 東営力 等財理等 の 世保補等	4.0	・受入環境整備と効果的でタイムリーなキャンペーン・プロモーションにより、持続的な取り組みが功を奏して成果に繋がっている。また、地域独自の取り組みも多角的、総合的に行われており、数値目標の好調さを支えているものと高く評価できる。 ・「道路運送法」の関係のバス運行については課題が残り、ターゲット客層と関係旅行会社との調整・連携が必要である。 ・外国人観光客に関する評価指標では、最近急速に増えている訪日外国人旅行者数の伸び率を下回っており、さらに対応を図る必要がある。 ・育成した通訳案内士が十分に活躍し、生活できることが大切である。そのためには、旅行会社との連携強化、高単価のガイドツアー増大へと向けた関係者の意識改革、さらに「高野・熊野ならではの高付加価値体験観光メニュー」開発が必要である。